

湖上のルートチョイス

湖の上を舞うように滑る。この素晴らしい体験は、厳しかった今年の冬からの贈り物。

2006年2月25-26日 山形県山形市
スキー-O J-Cup2006

湖上ルートが勝負を決めた

一面に広がるまっ平らな大雪原。それもそのはず、ここは結氷した湖の上。氷の上に積もった雪を踏みしめ、スケータリング走法でスピードをあげてゆく。目指すのは、湖の対岸に見えるオープン。そのオープンに登ったところに次のコントロールがあるはずだ。

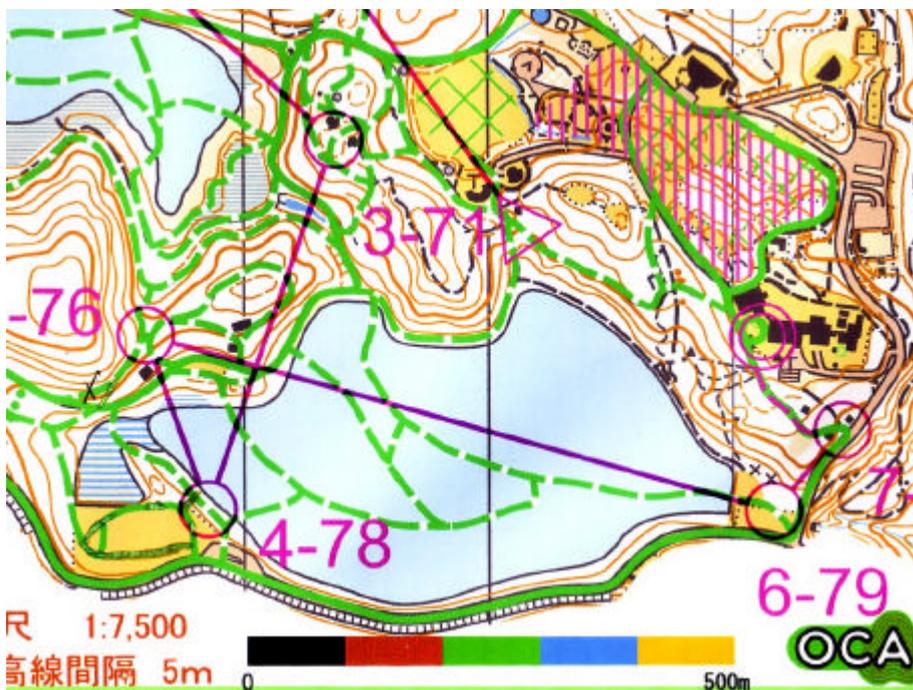
湖の上には主催者がつけたスノーモービルトラックのほかに、いくつもの競技者が新雪を散らして滑り去った跡が、いく筋も湖の対岸に向かってのびている。

「こんなに湖が使えるならもっとルート選択に使っておけばよかったな・・・」

筆者・木村の参加した M35 クラスは実力伯仲の大激戦。土曜日に行われたスプリントレースは僅かなルート取りの違いがそのまま成績に反映された。木村は湖ルートを積極的に使いきれず、結局最下位に沈んでしまった。この日の M35A を制したのは最初から湖上ルートを積極的に使った山田健一。スキー-O はこのようなちょっとした戦略の差が成績に直結する。



2日間とも優勝した元木友子(チーム白樺)夏・冬の世界選手権日本代表経験を持つ。スキー-O では停止が難しいことから、パンチング方法は EMIT 社のタッチフリーコントロールを使用している。E-card をかざすだけで OK。



J-cup2006 スプリント WE のコース
湖の上を通ってコントロールまでまっしぐら！

素晴らしいコンディション

今年の冬は各地が災害になるほどの多量の雪が降り注いだ。山形市西部のトレインにもたっぷりの積雪があり、それが時間をおいて落ち着いた状態になっていた。会場となった山形市少年自然の家周囲には雪上車で整備されるクロスカンントリーコースが広がっており、その合間を主催者がスノーモービルを使って網の目のようなトラックネットワークを整備している。しっかり締まった雪のネットワークは滑りやすく、最高のレースコンディションだ。

それでも春は近く、レース後半では雨になるくらいの暖かさで、体にも優しい天候。

地形、自然、天候、そして主催者の努力で作られる最高のレース環境。毎回参加して思う。「スキー-O ってなんて贅沢なスポーツなのでしょ」

元木 夫妻で完全勝利

2006年のスキー-OのJ-cupはスプリント種目とミドル種目が行われた。すべての種目において元木夫妻(元木悟・元木友子/ともにチーム白樺)が優勝を納めた。これによって2007年にロシアで行われるスキー-O世界選手権の代表の座を元木夫妻は手に入れた。



元木悟(チーム白樺)
コントロール通過後、動作を確かめている。
タッチフリーコントロールでは必要な動作である。

スキー-O J-Cup スプリント結果

ME		
1	元木 悟	0:18:09
2	宗形竜憲	0:18:49
3	羽鳥和重	0:22:10
WE		
1	元木友子	0:21:07
2	高橋美和	0:25:43
3	白鳥桂子	0:27:03
以下優勝者のみ		
M12A	渡辺 幸	0:20:19
M21A	和田雄一郎	0:31:48
M35A	山田健一	0:24:37
M50A	三澤儀男	0:27:16
M65A	弘中 進	0:18:51
MB	松本穂高	0:27:44
WB	武居美津枝	0:30:06

スキー-O J-Cup ミドルディスタンス結果

ME		
1	元木 悟	1:11:09
2	宗形竜憲	1:16:23
3	東井 透	1:23:29
WE		
1	元木友子	1:15:51
2	高橋美和	1:36:38
3	白鳥桂子	1:39:57
以下優勝者のみ		
M12A	渡辺 幸	0:42:19
M21A	和田雄一郎	1:01:54
M35A	木村佳司	0:59:05
M50A	三澤儀男	0:52:11
M65A	弘中 進	0:41:17
MB	松本穂高	0:28:32
WB	羽鳥亜希子	1:05:47

スキー-O な人たち

元木夫妻の完全優勝が目立った今回のJ-Cup。ほかにも目立った活躍をした人をピックアップ!

白鳥桂子



とても9ヶ月前に出産したとは思えないパワフルな滑り。スプリントレースでは滑りの部分ではWE/M35含めてベストストラップを奪っている。ラスポ フィニッシュまでのスピードも速い。さすがに北海道に住んでいるだけのことはある。

東井 透



J-Cup ミドル競技で常連に割って3位に入った東井。ミス率も低く安定したナビゲーションを行っていたことがうかがえる。

三浦裕司



前回のスキー-O 世界選手権への参加経験も持つ。スキーの速さは素晴らしく、今回ラスポ フィニッシュ間のラ

ップが唯一1分切っている。ダイナミックなフォームで豪快に滑る姿は遠くからでもよく判る。

羽鳥和重



フット0でも活躍している羽鳥和重がスキー-Oでも頭角を現してきた。スプリント種目ではMEで3位に食い込んできた。優秀な地図調査者でもある羽鳥はスプリント種目なら一発成績を残す可能性がある。滑走技術も向上中でまだまだ上位に迫る勢いだ。

柴田達真



スプリント試走に出る柴田。彼をはじめとするスキー-O 研究会の運営のおかげでJ-Cup が開催されている。

(木村佳司)